

小林一郎 ひがし 哲學者。明治九年十月二十日神奈川縣生れ、昭和十九年二月十八日没（一八六一—一九四一）。明治二十五年東京帝國大學文科大學哲學科卒。中央大學教授。また雑誌『法華』を創刊して白蓮主義を鼓吹。妻は國文學者小林榮子（獨身時代尾崎紅葉の門に入り、田中夕風の名で小説を發表）。

譯書に『まああかす冥想錄』（内題「アマウレリアス冥想錄」明治四十年五月二十一日參文舎・積文社）、『らんすき讀書論』（明治四十二年七月十日法邊館）、『ジゴン・ナスキン著『塵の倫理』（大正七年一月十五日法華社「ナスキン叢書」）等。著書は『プロトーン』（明治二十九年五月十五日富士房「世界哲學文庫」）、『白蓮主義の創り』（大正七年八月五日大同館）、『現代社會問題』文芸大學十六講（他十四名合著・長田龍彦編、大正十二年三月二十日雜新社刊）、『裕福堂出版部』（同上）正史國論と教育』（昭和十七年一月二十日小學校教育新體制叢書）、『聖徳太子の憲法』（大乘佛教）（昭和十七年四月八日月刊、大乘佛教）、『二十五年國語通譯』（昭和十七年七月二十一日法華社）、『詩葉集發國歌抄』（昭和十七年八月二十日平九社「皇國精神講座」）等。

『小林一郎先生を偲ぶ』（昭和五十二年佑和会）がある。

